

# UVカットフィルムでハウスミカンのハダニをカット

－ミカンハダニ防除の農薬散布を削減します－

## 開発の背景・ニーズ

ハウスミカンの重要害虫であるミカンハダニは、葉や果実を加害することで果実品質の低下を招きます。繁殖に好適な環境下では世代交代も速く、農薬に対する抵抗性が発達しやすく、有効な農薬の数も限られています。また、効果的な物理的防除方法が確立しておらず、農薬に頼らざる得ない状況にあります。そこで、新たな物理的防除の一つとして、ミカンハダニに対する近紫外線除去POフィルム（UVカットフィルム）の防除効果を検討しました。

## 成果の内容

近紫外線除去POフィルムを被覆資材として利用することで、3月25日から9月25日の間、ミカンハダニの寄生を完全に抑えることができました（図1）。また、11月15日から翌年10月25日までの間に、殺ダニ剤の散布回数を2回削減できました。さらに、6月1日のサイドビニル開放後も寄生密度を抑制したことから、ミカンハダニの外からの侵入やハウス内での増殖を抑える有効な物理的防除と考えられました。

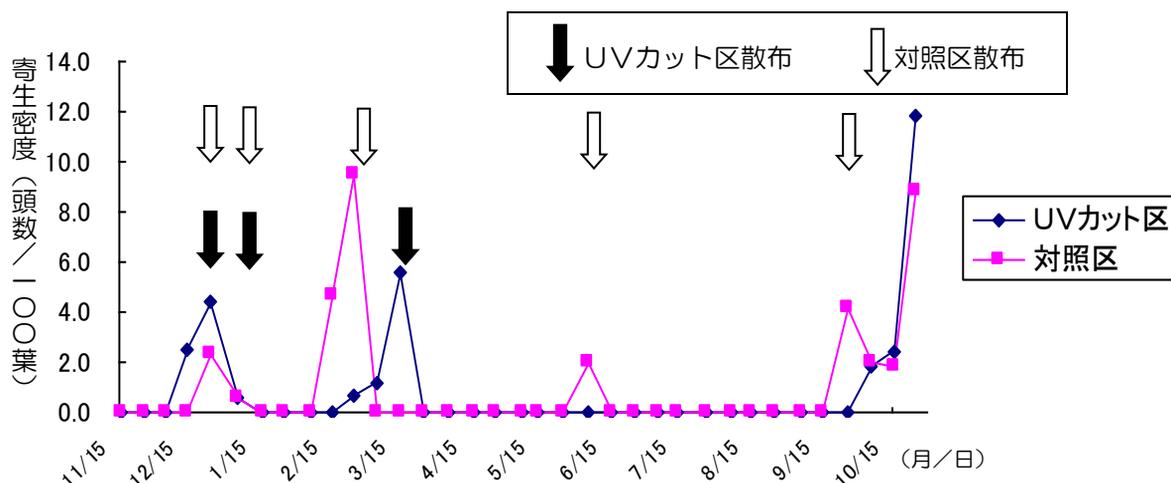


図1 ミカンハダニ雌成虫寄生密度の推移 (2011年～2012年)

### ●上記調査期間における殺ダニ剤の散布状況

12月27日 ビフェナゼート水和剤  
1月6日 マシン油乳剤 + アミトラス乳剤  
2月27日 (対照区)・3月15日 (UVカット区) シエノピラフェン水和剤  
6月20日 (対照区のみ①) スピロジクロフェン水和剤  
10月3日 (対照区のみ②) アセキノシル水和剤

## 愛知県農業への貢献

ハウスの被覆フィルム資材を変えるだけで、ハウスミカンの難防除害虫であるミカンハダニの発生を抑え、防除農薬の散布を減らすことができ、より安全安心な農産物の生産が可能となり、栽培農家にとって労力とコストの削減につなげることができます。